



第八十四回 『首』と耳血

考
え
シ
ウ
マ
ー

首にこだわる戦国武将も、
誇りにまみれて野垂れ死ぬ。

弦楽器イルカ  ⇔ 友人

目次

第八十三回『首』と耳血～G から U へ～	1
-----------------------------	---

第八十三回『首』と耳血～G から U へ～

前回の「カブトムシ」の例えはすごく面白いね。言われてみれば、あの歌詞に若干の違和感があったことに気づかされた。つまり aiko は自分を「かぶとむしのメス」だと思ってたってことだね。

「少し背の高い あなたの耳に 刺さるツノ」になっちゃうからね、オスだと。「ツノ邪魔だろ」って俺の中にあった無意識のツッコミを可視化してくれてありがとう。

「甘い匂いに 誘われたあたしは かぶとむしのメス」なんだよ本当は。ここ重要なのに字余りでカットだからね。「耳血を流すあなたに苦しうれしするツノ女」って aiko を誹謗中傷するところだった。危ない危ない。

カイアが A I かつザリガニって話は、やっぱり義務教育を受けていないのが大きいと思う。彼女の学校は野生に近い湿地だし、彼女の教師である湿地の生物たちってファミコンロボ程度の知能じゃない？ これは無根拠な偏見による誹謗中傷（差別）じゃなくて、根拠のある事実に基づいた指摘（区別）だと思う。

生物全体に同性愛や雌雄同体や性転換はあるし、性別による役割分担もあるから、性的に複雑なのは人間だけじゃない。ただ、そういう自然の不条理に対して、平等を目指して法や秩序といったルールを変更する行為は、圧倒的に人間的な文化（でありフェミ）だろう。

とはいえ性に限らず、ルール変更が行き過ぎて、人権と平等を武器に他者を無根拠に糾弾する行為は、ヒト以外の動物にも見られるような差別的な分断行為と言えるかもしれないね。

最終的に自然と平等のバランスが落ち着くまで、揉め事が起こるのは仕方ないんだろう。

『ザリガニ～』のレビューを読んだら、「今まで読んだ小説の中で最も深い内容」「カイアに感情移入して涙が止まらない」「湿地の描写が丁寧」「差別反対」「ラストに驚愕」「D V 男は沼地で野垂れ死ね」って感じだったから、アメリカで売れた理由もそういうことだと思う。自国であった昔の差別については当然、知識も実感もあるんだろうし。

ただ俺は、前にも書いたけど『デッドマン・ウォーキング』って死刑反対のノンフィクション読んで、「犯罪者が改心したら死刑執行は延長するタイプの死刑制度には賛成」って結論に至る人間だから、そりゃ考えちゃうウマシカだから仕方ない。

だって、今回書きたい『首』にしても、そもそも本編前の予告CMで、『あの花の咲く〜』で朗々と歌い上げる某国民的歌手に苦笑しちゃうのって、「俺が悪いの？」って思うんだよ。いや、テーマはいいよ、わかるよ。反戦だよ。でも予告の時点でキレイごとすぎるし、あれだけ朗々と「♪ふあ〜」って歌い上げられたら、自然と湧き上がる可笑しみをこらえ切れないよ。二回言うけど、これウマシカな俺が悪いの？

いや。お互い人権あるから、ウマシカも「♪ふあ〜」もどっちも悪くないよ。

というワケで『首』は、戦国時代の武将や合戦をカッコ良く描く「甲」を目指す作品ではなく、「♪ふあ〜」や『すずめ〜』で泣けない層にお勧めのまさに「乙」を目指す映画だったよ。

前に書いたけど、「大名物」という切り口で戦国時代を斬った『へうげもの』が好きな人なら、「乙」な日常を描いた映画のワビサビもわかるはず。

前評判で、「男色」「残酷」「笑い」などについて過剰に焦点当たってたけどそれは現代社会に慣れ過ぎてるせいで、戦国時代のさもありんな日常が描かれていたと俺は思う。

この程度で残酷だったらケンシロウは猟奇的殺人者だし、「男色」という語彙がなくて「BL」としか言語化できない人にも、ウマシカな俺はちょっと「♪ふあ〜」ってなるよ。

んで、『首』で気づいた裏テーマについて書いときたいんだけど。たぶん誰も書いてないと思うから。

信長は何言ってるかわからんほど汚い尾張弁なのに、秀吉は江戸弁ってか標準語なんだよ。海外の観客にはバレないだろうけど、関西人からしたら太閤殿下への侮辱って受け取られても仕方ないんじゃないかね。ドラマでも漫画でも、あの秀吉が（本来は尾張弁らしいけど）現代の標準語を話すことはないから違和感がすごい。

でもこれ、ウマシカな俺は絶対わざとだと思った。確信犯でやってるね。

つまり、関西の芸能事務所が東京をジャックして、関西弁を標準語にするほどの勢力を誇る現代テレビ界からの逆襲として、あの太閤殿下を標準語でジャック仕返してるんだよ。そしたら秀吉が若干お間抜けに描かれてることにも合点がいく。

家康も強かだったし、江戸舐めんなってウマシカな電波を俺は受信しました。

あとついでに『雄獅少年／ライオン少年』って中国映画も面白かったってずっと書けなかったから書いておくよ。予告編から想像できる通りの内容だけど、これでいいって思う。のんの日本語吹き替え版主題歌もよかった。

以上。今回はこんな感じ。どうかな？



考えるウマシカ～第八十四回 『首』と耳血～

著 弦楽器イルカ

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
